

第4回
ヤンパク調整会議
資料

平成 27 年度 農山漁村交流拠点整備事業
やんばる 3 村 会議（第 4 回）

平成 28 年 3 月 15 日（火）

14 : 00 ~ 16 : 00

会場 大宜味村農村環境改善センター

会 次 第

- 1 開 会（挨 拶）
- 2 本年度事業の取組について（資料 1）
- 3 ヤンパクのあり方・今後の行動計画について（資料 2）
 - ・ 3 村の将来像（目標）、ブランドコンセプト、ヤンパクの将来像のまとめ
 - ・ コンセプトを踏まえた行動予定
- 4 意見交換
- 5 閉 会

（以 上）

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業

やんばる3村 会議(第4回)出席者名簿

(敬称略)

番号	村	所属	役職	氏名	出欠
1	国頭村	企画商工課	係 長	前 田 浩 也	○
2		経 済 課	課 長 補 佐	大 城 靖	× (事業検査)
3		結 ぐ に が み	理 事 長	服 部 吉 伸	×
4		〃	事 務 局 長	仲 本 美 智 子	○
5	大宜味村	企画観光課	係 長	藤 田 元 也	○
6		産業振興課	係 長	宮 城 利 安	×
7		おおぞみまるこ と ツーリズム協会	理 事 長	宮 城 健 隆	○
8		〃	事 務 局 長	稲 福 元 子	○
9	東村	企画観光課	主 事	宮 城 真 悟	△
10		農林水産課		久 高 将 治	○
11		東村観光推進 協 議 会	理 事 長	吉 本 淳	○
12		〃	事 務 局 長	小 田 晃 久	○
13		〃		儀 間 しのぶ	○
14		〃		城 間 政 富	○
15	沖縄県	村づくり計画課	農村活性化推進 班 長	大 嶺 保 和	○
16		〃	主 任 技 師	崎 間 賀 子	○
17		〃		金 城 雅 友	○
18	事務局	OC		小 川 哲 平	○
19		OC		大 城 美 由 紀	○
20		A R J		大 島 重 久	○

本年度の検討経緯

<会議等の予定>

	実施事項
第1回 ヤンパク調整会議 (9月15日)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業趣旨について、活動促進のあり方の調整 ・本年度の事業スケジュール、調整スケジュール ・ブランドコンセプトのあり方について
第2回 ヤンパク調整会議 (10月27日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドコンセプトの検討 (3村の目標、ビジョンを踏まえた検討。) ・コンセプトを踏まえた行動方針 ・交流会や、PR イベントについて
第3回 ヤンパク調整会議 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドコンセプト、3村の将来像、ヤンパクの将来像のまとめ ・コンセプトを踏まえた行動予定 ・交流会の企画について ・今後の運営について
【花と食のフェスタ】 <ul style="list-style-type: none"> ・県民向けPR (2月6、7日)	<ul style="list-style-type: none"> ・花と食のフェスタにおけるブース出展 (3村側が主体となって実施)
【交流会の開催】 (3月4日)	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄地域子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー (セミナー、ワークショップ)
第4回 ヤンパク調整会議 ※報告会 (3月15日)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの総括 ・各村担当者への報告

活動報告 1 「おきなわ花と食のフェスティバル 2016」への出展

農林水産業に対する県民の理解促進、消費拡大、生産振興を目的としたイベント「おきなわ花と食のフェスティバル 2016」に「ヤンパク」としてブース出展を行い、やんばる3村の産品や体験のPRを行った。

1. イベント概要

- (1) 日時 : 平成 28 年 2 月 6 日 (土)、7 日 (日) 10:00~18:00
- (2) 場所 : 奥武山公園
- (3) 主催・共催 : おきなわ花と食のフェスティバル推進本部
- (4) 参加者 : (目標値は 16 万人)

2. 出展結果

- ・試食、試飲、販売を行い「パインジャム」「ナントゥー」「パインドレッシング」などが売れ筋だった。



おきなわ花と食フェスティバル2016(案)

2018年2月6日(土)・7日(日)

やんばる交流推進連絡協議会

1 出店予定内容

展示・配布	販売商品(加工品)	価格	数量	青果物	数量	試飲	試食
各村のパンフレット	パインジャム(東)	500円	24				パインジャム(クラッカー)
村PRポスター	パイン缶(東)	500円	24				
民泊・体験写真展示	パインスドレッシング(東)	500円	24				
イベント情報(チラシ)	からぎ茶(国頭)	500円	30			からぎ茶キーパー(ホット)	
	からぎ茶Tパック(国頭)	600円	10				
	ナントウ餅(国頭)3個入り	300円	200				
	シークワサー蜜(大宜味)	800円	400			シークワサー蜜(ホット)	
	乾燥パイア(やんばる交流)	300					乾燥パイアサラダ

*3村の道の駅等で売れ筋(人気)商品ベスト3

1 体験

体験名	体験内容	特色	体験
コスメ体験 オーガニックの化粧水 国頭村	月桃・ヨモギ・からぎの香りをベースに椿(花・種・葉)・ハイビスカス水で化粧水を作ります。	やんばるの森で採れた植物から抽出したエキスでオリジナルの手作り化粧水です。	2,000
バードコール作り 東村	鳥の音を出す道具の事で、鳥笛とも呼ばれます。木片とボルトを使って簡単に作ることができます。この木片と金属棒をこすり合わせて出す音が鳥の鳴き声に似ていて、この音で鳥が集まってくるのを楽しむという道具です。	やんばるの木材を使用しています。ヤンバルクイナやノグチゲラが集まってくるかも。	500
貝殻ランプ作り 大宜味村	サンゴや貝殻、シーグラスを使ってオリジナルなランプシェードを作ります。	世界に一つオリジナルなランプシェード。ロウソクを灯したり、アロマキャンドルを灯しながら憩いのひと時を味わうのもおつなもの	2,000

いっぱいあるよ
好奇心くすぐる
体験

田舎でまってるヨ!

インフォメーション「いなか体験」

～都市農村交流情報コーナー～ 場所：ブース⑥



2月6日(土)
協力：みなみの味クリーン・ツーリズム

ハーブピネガー作り体験

参加費 **1000円**

さとうきびエコはがき作り体験

参加費 **300円**

参加費 **500円**

フルーツハーブティーの淹れ方教室

2月7日(日)
協力：自然体験学校(沖縄校)

ススキのサン作り体験

参加費 **無料**

2月6日(土)・7日(日)
協力：やんばる交流推進連絡協議会(ヤンバク)

コスメ体験
オーガニックの化粧水作り

参加費 **2000円**

貝殻ランプ作り体験

参加費 **2000円**

バードコール作り体験

参加費 **500円**

協力：結ぐにかみ 協力が物IPひ法かおまきまること ツーリズム協会

協力：東村観光推進協議会

ふれあい体験(無料)

ウサギ・モルモット・ハムスター・パンダ
ネズミ・ハリネズミ・
ミーアキャット・ヤギ・羊・ポニー
小動物とのふれあい、動物の生態説明や
動物のケア方法など



ポニー乗馬体験

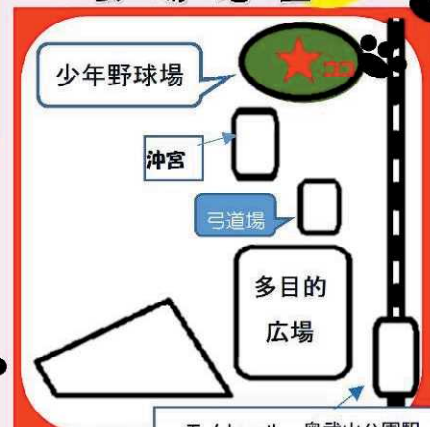
体験費 **500円**
協力：うちなーファーム (糸満観光農園)



ウサギあひだり体験

体験費 **200円**

会場地図



問い合わせ：沖縄県農林水産部・村づくり計画課
TEL: 098-866-2263

活動報告 2 「沖縄地域子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー」への参加

今後推進を図る、「子ども農山漁村交流プロジェクト」に係るセミナーに参加し、3村の受入農家も含む形で、受入対応に対する理解を進めつつ、受入農家間の交流を図った。

- 1 目的 「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、農林漁業体験や宿泊体験、地域住民との交流を通じて、子どもたちの生きる力を育むとともに、交流の創出による地域再生や活性化を目的として取り組まれている。

沖縄県においても、特に北部地域は「子ども体験交流プロジェクト」の取組み先進地域であり、県内で優良事例として期待されています。しかし、県内では教育現場とのマッチングが推進上の課題となっており、地域性を活かした受入を具体化していくことが求められています。今回のセミナーが子どもたちの体験プログラムを考える機会とする。

- 2 日程 平成 28 年 3 月 4 日(金) 18:00～21:30(17:30 開場)

- 3 募集人数

第 1 部 100 名

第 2 部 30 名(各団体から 10 名ずつ参加者を指名)

- 4 費用無料

- 5 開催場所 大宜味村農村環境改善センターホール

- 6 対象 受入地域団体会員

(合同会社結くにながみ、NPO 法人おおぎみまるごとツーリズム協会、東村観光推進協議会)、自治体職員、教育委員会職員、学校教職員、教育や地域づくりに関心のある方等

- 7 主催:沖縄県地域「子ども農山漁村交流プロジェクト」推進連絡会

- 8 後援:一般社団法人全国農協観光協会

<実施内容>

【第一部】

1 あいさつ(18:00～18:05)

内閣府沖縄総合事務局農林水産部土地改良課農村活性化推進室

2 子ども農山漁村交流プロジェクトの概要説明(18:05～18:20)

全国農協観光協会子ども交流プロジェクト出口事務局長

3 基調講演(18:20～19:10)

「農村の活性化をめざしたグリーンツーリズム～吉四六さん村が取り組む子ども体験交流プロジェクト～」

講師:大分県臼杵市吉四六さん村グリーン・ツーリズム幸義子氏

4 質疑(19:10～19:25)

5 閉会(19:25～19:30)

休憩(19:30～19:45)

【第二部】

1 趣旨説明(19:45～19:55)

- ・テーマの説明「やんばるの体験で子ども達が得られるものは？」

2 ワークショップ(19:55～20:55)

3 総括(20:55～21:00)

4 閉会

ヤンバクのあり方・今後の行動計画について

1. 3村・ヤンバクの将来像（10年後の姿）

○日常生活で見失いがちな人としての原点を、大自然のなかでの体験や、素朴な人々との交流の中で見つめる。そんな原点復帰と元氣回復の旅を提供。地域に活力を取り戻し、リピーターとは「おかえり」ただいま」といえる絆を作り上げる。

＜顧客＞

- ・民泊の受入目標は 14,900 人（2025 年） 現状より約 20%の増加。
- ・通常の民泊の閑散期も含め、多様な顧客の受け入れを進めている。

＜運営＞

- ・事務局を法人化し、一元的な案内窓口機能、一体的なオペレーションが実現している。

＜地域貢献＞

- ・人口減少基調（1万人→0.85万人）にはあるものの国頭村、大宜味村とも受入農家の増加（国頭 24軒→40軒、大宜味 42軒→60軒）を積極的に行なう。東村では受入農家数を維持（60軒）している。
- ・受入数を持続する中で、地産地消を進め地域経済に貢献している。

2. ヤンバクの地域ブランド

＜ブランドの核＞

- 水は川がぐれる、魚は海からもらう、野菜は大地が育む、肉は命が与えてくれる…自分が幸せに暮らせるのは自然の偉大な恩恵であることに気づく。
- やんばるのコミュニティで生活するとき、血縁関係を超越した家族の一員として自分が大事にされていることを実感し、同時に仲間を大事にすることの大切さに気づく。

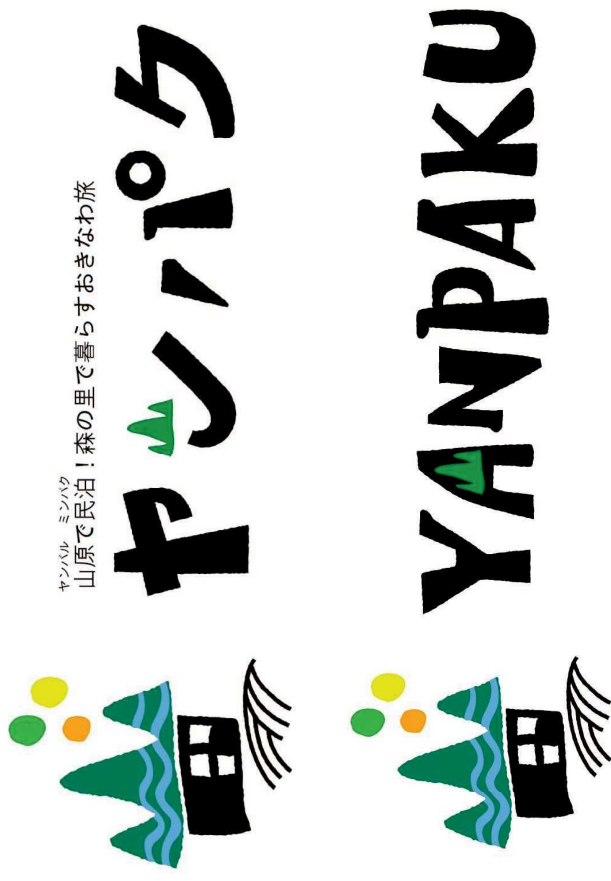
＜ブランドの価値＞

- 大自然や素朴な人々と楽しく関わっていくなかで、自分自身の原点や人間本来のあり方に気づく。この「気づきこそ、ヤンバク最大の価値である。

＜ブランドメッセージ＞

- 希少生物が息づく自然、それと一体となった生活、飾らないけれど優しい人々。その暮らしをのびのびと体験することで心の原風景に触れもらい、大きな感動と未来への活力を得ていただく。

（参考：ヤンバクのロゴマークと説明）



ヤンバク ミンバク
山原で民泊！森の里で暮らすおきなわ旅

サブタイトル

山原で民泊！森の里で暮らすおきなわ旅

タイトルに込めた言葉とイメージ

「ヤンバク」×「民泊」×「わんぱく」（アクトイブ感）

ヤンバクとは…盛めの定義

「ヤンバク」とは、やんばる3村（国頭村・大宜味村・東村）の麓山漁村の活性を目的とした、3村連携による民泊及び民泊前後の日に実施される体験プログラム、また3村連携で開発されたオリジナル商品や観光サービスを指します。

＜今後の行動計画＞

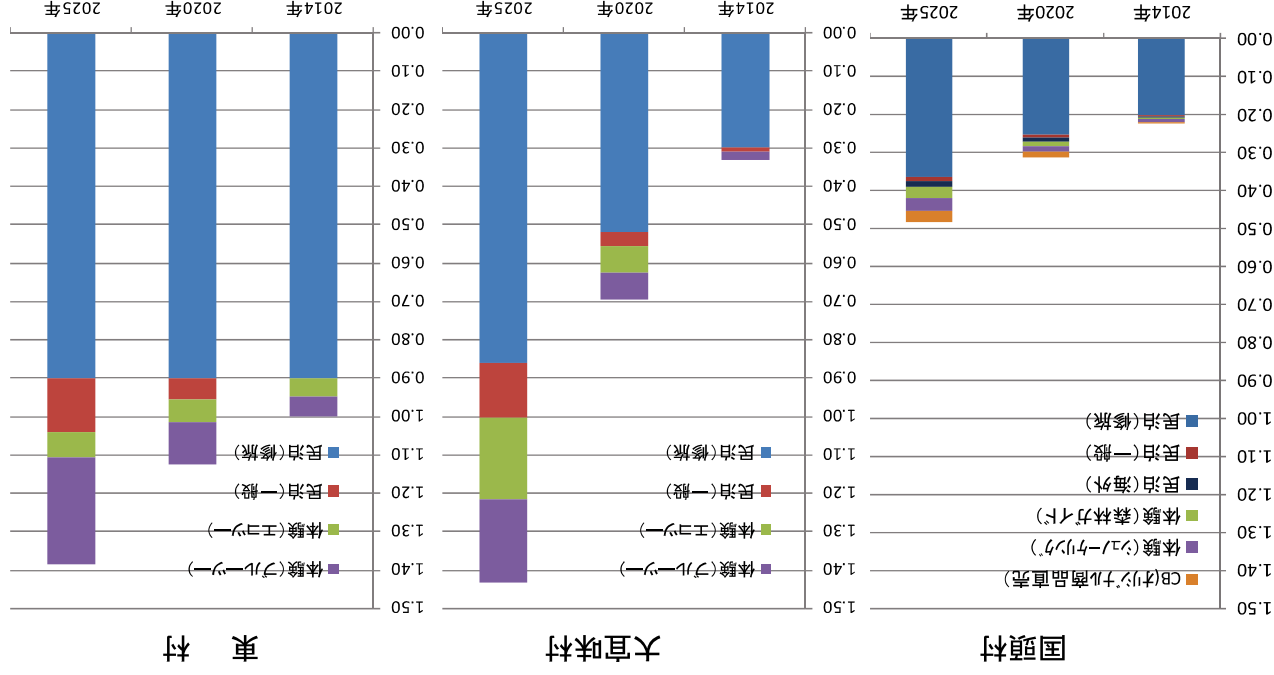
	短期（本年度～来年度）【データは2010年】	中期（5年後まで）【2020年】	中長期（10年度まで）【2025年】
	<p>・人口（高齢化率） 10,201人（26.1%） ※3村合算</p> <p>・民泊受入数 12,400人</p>	<p>・人口（高齢化率） 9,103人（33.4%） ※3村合算</p> <p>・民泊受入数 13,500人</p>	<p>・人口（高齢化率） 8,586人（37.2%） ※3村合算</p> <p>・民泊受入数 14,900人</p>
拠点化の推進	<p>○窓口の一元化に向けて、内部ルールの統一化を図っている。</p> <p>→現状、不整合のある受入ルールの統一化を図る。 例えば、最大の予約人数、予約の取り方、体験内容（農業）、日曜日受入、地域外へ出ることの可否、海水浴の可否 など</p>	<p>○窓口の一元化を図っている。これに対応した拠点組織を立ち上げている。</p> <p>→3村の体的な窓口を統一化し、一元化対応を図っている。</p> <p>→これに対応した、拠点組織を立ち上げている。</p>	<p>○一元で効率的に運用され、組織が独立採算化している。（地域商社機能を担っている）</p> <p>→三村の受入組織について収益を元に独立採算化を果たしている。（開発した商品の販売促進・収益の創出）</p>
受入体制充実	<p>○新たな顧客（大人や外国人）の受入に向けた準備を進めている。</p> <p>→新たな顧客の受入のためのスキルアップを進めている。例えば、ウチナーグチ・琉球の歴史の勉強会の実施など</p>	<p>○新たな顧客（大人や外国人）の受入を実際に進めている。</p> <p>→大人や外国人といった新たな顧客の受入体制を構築し、受入を進めている。</p>	<p>○大人や外国人の受入について拡大を行っている。さらなる顧客拡大を進めている。</p> <p>→大人やインバウンドの受入を更に進め、取組を強化している。</p> <p>→また、情報発信を行いさらなる顧客拡大を進めている。</p>
新規商品開発	<p>○ヤンバクの取組と相乗効果のある商品企画を行っている。</p> <p>→3村の魅力発信する商品や、民泊での消費が期待できる商品の企画を行なう。</p>	<p>○ヤンバクの取組と相乗効果のある商品の販売が進められている。</p> <p>→3村合同で商品開発・販売を推進している。</p> <p>→民泊での消費が期待できる商品を販売している。 （※ 材料の集積など行政を通じた協力を要請したい。）</p>	<p>○ヤンバクの取組と相乗効果のある商品の販売が進められている。ヤンバクのブランドが発信出来ている。</p> <p>→一元窓口を中心とした商品の展開により、ブランドを発信している。</p>
その他	<p>○行政協働による営業活動、観光PRの実施。</p> <p>○新規の民泊参加農家の増加を促進。（大型校や、現受入民家の高齢対策）</p> <p>○3村のフィールドを使った観光イベント・スポーツイベント等の開催</p> <p>○三村協働でのイベントへの出展などの実施。</p> <p>○環境・自然保護活動の強化</p> <p>○3村行政も含む定期的な話し合いの場の設置。</p>		<p>○行政からの支援はなく、協働関係を継続している。</p>
その他（個別の取組）	<p>○東村第五次総合計画（前期）と照らしながら、観光産業の発展に繋がる事業を展開する。（東村）</p> <p>○村内への宿泊施設の誘致促進。（大宜味）</p> <p>○統合した後の学校跡地の利活用。世界自然遺産登録にむけて取り組み、シルバー人材の育成・活用。（大宜味村）</p>	<p>○東村第五次総合計画（前期）の反省点を踏まえて後期計画に繋げる。（東村）</p> <p>○安定した協会運営体制と強化（大宜味）</p> <p>○教育委員会・小中学校・辺土名高校を取り巻きながらインバウンドの学校関係との交流や交換留学等への取組。（大宜味）</p>	

※ 現在「やんばる交流推進連絡協議会」の事務局の業務を、3村持ち回りで受けているが、定例の会合や一部事務を除くと、ヤンバクとしての活動と重複しており、今後、活動の整理が必要。

参考データ1 民泊の将来目標及び関連指標

(1)人口(人)	現況		5年度		10年度		参考
	2010年	2020年	2020年	2025年	2025年	2025年	
・3村人口計(A)	10,201	9,103	9,103	8,586			3村構成
(現況比)	-	89.2%	89.2%	84.2%			
国頭	5,188	4,623	4,623	4,359			50.9%
大宜味	3,221	2,856	2,856	2,685			31.6%
東	1,792	1,624	1,624	1,542			17.6%
(2)高齢化率(%)							
-3村合算	26.1%	33.4%	33.4%	37.2%			
(3)農家数(世帯)							農家数C=B/A
・3村農家数計(B)	815	727	727	686			8.0%
国頭	357	318	318	300			6.9%
大宜味	252	223	223	210			7.8%
東	206	187	187	177			11.5%
(4)民泊実施世帯数							
							※Cを併用し算出
(5)農家の民泊実施率							
							※Cを併用し算出
・3村農家数計(B)	126	152	152	160			2014年
国頭	24	32	32	40			2020年
大宜味	42	60	60	60			2025年
東	60	60	60	60			2014年
							2020年
							2025年
(6)民泊受入人数							
・3村農家数計(B)	12,436	13,500	13,500	14,900			2014年
国頭	1,786	2,000	2,000	2,400			2020年
大宜味	2,650	3,500	3,500	4,500			2025年
東	8,000	8,000	8,000	8,000			2014年
							2020年
							2025年
(7)世帯毎の年間受入回数							
・3村農家数計(B)	19.7	17.8	17.8	18.6			2014年
国頭	14.9	12.5	12.5	12.0			2020年
大宜味	12.6	11.7	11.7	15.0			2025年
東	26.7	26.7	26.7	26.7			2014年
							2020年
							2025年
受入人数							5名/世帯

参考データ2：3村組織の取り扱い形態(目標)からみた比較(推計)



沖縄地域子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー

日時：平成 28 年 3 月 4 日(金)

18 時～ 21 時(延長あり)

場所：大宜味村農村環境改善センター

次 第

【第一部】

- 1 あいさつ (18:00~18:05)
内閣府沖縄総合事務局 農林水産部土地改良課農村活性化推進室
- 2 子ども農山漁村交流プロジェクトの概要説明 (18:05~18:20)
全国農協観光協会 子ども交流プロジェクト 出口事務局長
- 3 基調講演 (18:20 ~ 19:10)
「農村の活性化をめざしたグリーンツーリズム
～吉四六さん村が取り組む子ども体験交流プロジェクト～」
講師：大分県臼杵市 吉四六さん村グリーン・ツーリズム 幸 義子氏
- 4 質疑 (19:10 ~ 19:25)
- 5 閉会 (19:25 ~ 19:30)

休 憩 (19:30~19:45)

【第二部】

- 1 趣旨説明 (19:45 ~ 19:55)
・テーマの説明「やんばるの体験で子ども達が得られるものは？」
- 2 ワークショップ (19:55 ~ 20:55)
- 3 総括 (20:55 ~ 21:00)
- 5 閉会

沖縄地域子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー 実施要領

- 1 目的 「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、農林漁業体験や宿泊体験、地域住民との交流を通じて、子どもたちの生きる力を育むとともに、交流の創出による地域再生や活性化を目的として取り組まれている。
沖縄県においても、特に北部地域は「子ども体験交流プロジェクト」の取り組み先進地域であり、県内で優良事例として期待されています。しかし、県内では教育現場とのマッチングが推進上の課題となっており、地域性を活かした受入を具体化していくことが求められています。今回のセミナーが子どもたちの体験プログラムを考える機会とする。
- 2 日程 平成28年3月4日（金）18:00～21:30（17:30開場）
- 3 募集人数 第1部 150名
第2部 30名（各団体から10名ずつ参加者を指名）
- 4 費用 無料
- 5 開催場所 大宜味村農村環境改善センター ホール
- 6 対象 受入地域団体会員
（合同会社結くにながみ、NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会、東村観光推進協議会）、自治体職員、教育委員会職員、学校教職員、教育や地域づくりに関心のある方等
- 7 主催：沖縄県地域「子ども農山漁村交流プロジェクト」推進連絡会
- 8 後援：一般社団法人 全国農協観光協会

ワークショップの進め方

1. 進め方（進行：沖縄県村づくり計画課大嶺）
 - (1) 趣旨説明（沖縄県村づくり計画課）
 - (2) ワークショップ
 - ①自己紹介（グループ単位）
 - ②意見交換1『やんばるの交流体験として、どのような素材があるか？』
 - ③意見交換2『子供達に何を学び感じてほしいか？』
 - ④グループ発表
 - (3) 総括（全国農協観光協会、幸氏など）

2. ワークショップのグループ分け
 - ・ワークショップ参加人数：30名
 - ・参集範囲：国頭村、東村、大宜味村のグリーン・ツーリズム実践者（民泊受入）
 - ・グループ数：5～6グループ

3. 役割分担
 - ・全体の進行：沖縄県村づくり計画課（大嶺）
 - ・グループの進行：5～6人（県委託コンサル等）
 - ・グループの記録：5～6人（県委託コンサル等）
 - ・カメラ
 - ・総括：1～2人

4. 準備する物（沖縄県村づくり計画課準備）
 - ・ワークショップシート
 - ・ネームプレート
 - ・資料
 - ・付せん紙
 - ・サインペン
 - ・プロジェクター
 - ・湯茶用キーパー（及びコップ、茶菓子）

5. 会場設営（第一部会場使用）
 - ・グループ毎のテーブルの準備（5つの島）：関係者協力
 - ・マイク